



ねたてのもり

宜野湾市を象徴する「ねたてのまち」の「ねたて」について、『沖縄古語大辞典』の「ねーだて【根立て】」の項には、「根を立てること。創建。用例では根本となっている。根元たる、の意を表す美称辞。」とあります。

沖縄の古代歌謡集『おもろさうし』で、「ねたて」の語が見られる宜野湾のオモロは巻十五―〇九四で、「かゝずもりぐすく（嘉数杜城）」と「ねたてもりぐすく」が対語として歌われています。

この「嘉数杜」ですが、首里王府が編纂し一七二三年に成立した地誌・『琉球国由来記』に宜野湾間切嘉数村の御嶽とし

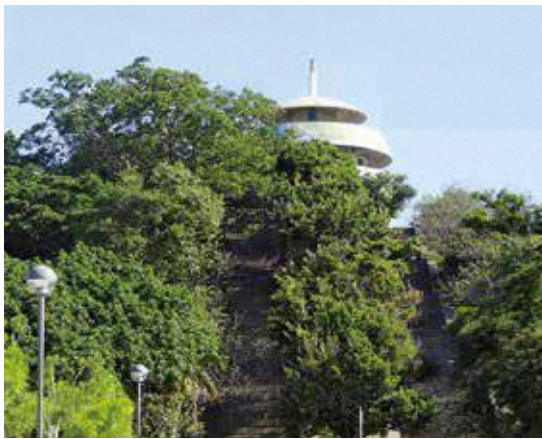


▲イーヌヤマの祠

て記述のある「スミナリノ嶽」が嘉数杜であり、現在は「イーヌヤマ」と呼ばれている所ではないかと推定されています。昔は嘉数高台中央の祠のみならず、高台の森全体をも含めて「イーヌヤマ」と称されていたそうです（『宜野湾市史第五巻資料編四 民俗』）。また、戦時中は「嘉数高地」と呼ばれ激戦地となった場所でもあります。

ここが「嘉数杜」であるとするならば、古くは地域の根元として人々を守り崇敬された場所であり、現在は聖地であるとともに平和学習の場として多くの人々を迎え入れている場所であるといえます。

平和を希求する宜野湾市民にとって、現在も「ねたてのもり」であり続けているのかも知れません。



▲嘉数高台公園

【問合せ】市立博物館 ☎ 870・9317



ここにもあるよ！正面玄関横 博物館の屋外展示について

市立博物館では、貴重な資料を収集し、それらを展示・公開する取り組みを行っています。館内の常設展示室や企画展示室では、たくさんの方が展示されていますが、大型で劣化のしにくい資料の展示は室内だけでなく、屋外でも行っています。

当館の入口玄関の右側に、石製の資料がいくつか並べられているのをご存知の方は少ないかもしれません。今回はこれらの資料について知って頂きたく、ご紹介いたします。

写真①の一番手前にあるのが「ンムアライトーニ」といって、芋を洗うための石灰岩製のタライです。タライに水を入れ、足踏みで芋を洗います。使用後は、底の水抜き孔にはめた栓を抜き、水を捨てました。次は、石灰岩製の香炉石「チール石（ウコール石）」です。野嵩一区内にあった亀甲墓の墓口で使われていた、線香を立てるための台で、昭和10（1935）年頃に造られたものです。その隣にある4つ並んだ石輪は、砂岩で造られた「サーターグルマ」です。

サトウキビの庄搾機の一部で、横に3つ並べた石の間にサトウキビを通して搾りました。写真②は、火災前の首里城で使用された砂岩の「礎石」で、その幅は約75センチあります。「礎石」とは、建物の柱の基礎のことで柱の下に置かれました。これは、沖縄県主催の「首里城火災破損瓦等に係る活用事業」により引き取ったものです。この礎石の大きさから、建物の大きさが想像できるかと思えます。

このように、昔の文化や暮らしを知ることの出来る貴重な資料が、玄関横にひっそりと展示してあります。博物館へお越しの際には、ぜひ皆さまにご覧いただきたいと思っています。

市立博物館 ☎ 870・9317



写真① 玄関横に並べられた石製の資料たち。左側から「ンムアライトーニ」、「チール石（ウコール石）」、4個の「サーターグルマ」



写真② 首里城の「礎石（そせき）」。火災によって変色やひび割れが生じています。